

岩障ス発第 198 号
令和元年 12 月 27 日

東北各県・指定都市
障がい者スポーツ協会 会長 様
障がい者スポーツ指導者協議会 会長 様

一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
会長 藤井公博
(公印省略)

2019 年度障がい者スポーツ特別研修会のご案内について

日頃より、当協会の事業運営に対しましては、多大なるご支援、ご協力を賜りまして、心よりお礼申し上げます。

さて、標記について、別添のとおり開催することとしております。2020 年、東京パラリンピックが開催されます。パラリンピック開催の目的の一つは、共生社会の実現と言われておりますが、取り組みの方向性は多岐に渡り、多くの価値観が混在しています。そこで本研修会では、「教育」「メディア」「政治」の3つの視点から、パラリンピックの持つ役割について議論し、その価値を高めるとともに共生社会の実現に向けて一人ひとりが歩むべき方向性を照らしたいと考えております。

つきましては、開催趣旨にご理解をいただき、貴団体関係者への周知等についてご協力いただきますようお願い申し上げます。

※要項等は当協会 HP よりダウンロードすることができます。

〒020-0831
盛岡市三本柳 8-1-3
(一社)岩手県障がい者スポーツ協会
担当 三浦・小坂
TEL 019-637-5055/FAX 019-637-7626
E-mail : t-miura@iwate-adaptive.or.jp

2019年度 障がい者スポーツ特別研修会開催要項
「パラリンピックの役割を考える—教育・メディア・政治の視点から」

1 趣 旨

2020年、世界最高峰の障がい者アスリートが参加する東京パラリンピックが開催される。パラリンピックのもう1つの目的は、共生社会の実現と言われているが、取り組みの方向性は多岐に渡り、多くの価値観が混在している。この要因の1つに私たちの潜在意識の中にある「障害に対する固定概念」があるのではないか。その根源は、幼少期から様々な関わりの中で行われてきた「教育」や、ほぼ毎日欠かさずに提供される「メディア」からの情報、そして、国のスポーツの予算やその使い道を司る「政治」からの影響は少なくない。そこで、本研修会では、この3つの視点から、パラリンピックの持つ役割について議論し、その価値を高めるとともに共生社会の実現に向けて一人ひとりが歩むべき方向性を照らしたい。

2 主 催 一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

3 共 催 一般社団法人コ・イノベーション研究所、岩手県障がい者スポーツ指導者協議会

4 後 援 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、岩手県教育委員会
公益財団法人岩手県体育協会、岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
岩手県スポーツ推進委員協議会、岩手県特別支援学校連絡協議会
NPO 法人岩手県レクリエーション協会、一般社団法人岩手県理学療法士会
一般社団法人岩手県作業療法士会、岩手県障がい者社会参加推進センター
いわて生涯スポーツ推進ネットワーク (以上、予定団体)

5 実施概要

(1) 日時：令和2年1月26日(日) 13:00～15:50 (受付12:30～)

(2) 会場：ふれあいランド岩手・ふれあいホール(1階)

〒020-0831 盛岡市三本柳 8-1-3 / TEL 019-637-1000 (総合案内)

(3) 日程表

12:30	13:00	13:10	13:50	14:10	14:20	14:40	15:40	15:50
受付	開 会 行 事	基調講演	話題提供 I	休憩	話題提供 II	パネルディスカッション	閉 会 行 事	

(4) 定 員 70名程度 (受講料：無料)

6 参加対象者

- (1) 教育関係者、(2) 障がい者スポーツ指導員、(3) 福祉サービス事業所等 関係者
(4) 各市町村体育協会関係者、(5) 各市町村スポーツ推進委員
(6) 総合型地域スポーツクラブ関係者、(7) リハビリ関係職員、(8) その他

7 申込方法 別紙申込書により、郵送・FAX・Eメール等によりお申込みください。

※申込締切 令和2年1月21日(火)

8 申込・問合せ先

(一社) 岩手県障がい者スポーツ協会 (担当：三浦、小坂)
〒020-0831 盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内
TEL 019-637-5055 / FAX 019-637-7626
E-mail: t-miura@iwate-adaptive.or.jp

9 内容

(1) 基調講演 (13:10~13:50)

①テーマ「パラリンピックと教育～障害という切り口を通して社会を見る」

②講師：東京大学 大学院教育学研究科



附属バリアフリー教育開発研究センター 准教授 ^{ほしか りょうじ} 星加 良司 氏

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（社会学）。東京大学先端科学技術研究センター特任助教等を経て、2017年現職。1975年、愛媛県生まれ。5歳の時に全盲となるが小・中・高ともに普通学校に通う。国・自治体の障害施策関連の委員を多数務めるほか、障害や多様性に関する先端的な知の社会還元を進める観点から、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との共同プロジェクト「『心のバリアフリー』教育の講師養成講座」等を展開している。

(2) 話題提供 I (13:50~14:10)

①テーマ「パラリンピックと報道～障害当事者の声からメディアのあり方を考える」

②講師：NHK放送文化研究所 メディア研究部 研究主幹 ^{やまだ きよし} 山田 潔 氏



1983年NHKに入局。著作権部・法務部など法務関係の業務を経て、2012年から現職。1歳で罹ったポリオの後遺症による両下肢障害の当事者として、2016年度から障害者スポーツと放送の研究に取り組む。研究所刊行の月刊誌「放送研究と調査」において「障害者スポーツと放送」（2016年12月号）、「シンポジウム『パラリンピックと放送の役割～ロンドン・リオから東京2020に向けて』」（2017年9月号増刊）、「パラリンピック放送に対する身体障害者の声」（2018年11月号）を公表。

(3) 話題提供 II (14:20~14:40)

①テーマ「パラリンピックと政治～強くやさしい日本を岩手から作ろう！」

②講師：参議院議員 ^{よこさわ たかのり} 横沢 高德 氏（バンクーバーパラリンピック冬季大会日本代表）



1972年、岩手県紫波郡矢巾町生まれ。1990年、スズキ株式会社入社。1992年、有限会社NRS入社。1994年、株式会社デンキョー入社。1995年、モトクロス国際A級ライセンス取得、全日本モトクロス選手権参戦。1997年、練習中事故により脊髄を損傷し車イス生活となる。1999年、チェアスキー選手となり国内大会出場。2010年、バンクーバーパラリンピック日本代表。アルペンスキー男子大回転座位21位。2019年7月、参議院選挙岩手選挙区に野党統一候補として立候補し、初当選。パラリンピアン初の国会議員となる。

(3) パネルディスカッション (14:40~15:40)

①テーマ「パラリンピックの役割～共生社会の実現や社会的課題の解決に向けて」

②パネリスト：星加 良司 氏、山田 潔 氏、横沢 高德 氏

③ファシリテーター：一般社団法人コ・イノベーション研究所 代表理事 ^{はしもと だいすけ} 橋本 大佑 氏



筑波大学卒業後、ドイツに渡り、車いすスポーツを通じた障害児・者への導入指導方法について学ぶ。2009年に帰国後、国内において障がい者スポーツの導入における指導の開発・普及に取り組む。ドイツで師事したホルスト・ストローケンデル先生の理念を実践するために法人設立。障がい者スポーツだけではなく、様々な社会課題を分析し、その解決方法を研究・開発。現在は、企業研修等でも講演依頼が多い。本日は、このパネルディスカッションのファシリテーターを務める。